



運動会も近づいたある秋の日の朝、  
よしおは、歩きながら運動会の練習に必要なハチマキを  
忘れてきたことに気づきました。そこで、四つ年上の姉のゆう子に、  
このことを歩きながらこっそり話しました。  
「もう半分以上も歩いてきているから、今から引き返したら間に合わないよ。あきらめなよ」  
と予想どおりの返事でした。でも、一年生の担任の先生も、とてもきびしかったです。  
その上、よしおは、きのうもハチマキを忘れたのです。  
「今日、ハチマキを忘れたら、練習の間、ずっと運動場に立たされるよ。  
お願いだから班長さん言ってくよ。」とよしおは、ゆう子に必死にお願いしました。  
ゆう子ももしかたなく班長さんに、これからハチマキを取りに帰ると話しました。  
すると、班長さんは、  
「えー、うそだろーそんなことしたらおくれるじゃないか。せうたいにだめーだめー」  
とこれまた予想どおりの返事でした。  
それを聞いて、よしおは泣き出してしまいました。